

(8) 中国



中国地域では、景気は足踏み状態となっている。

- ・ 鋳工業生産は減少している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)

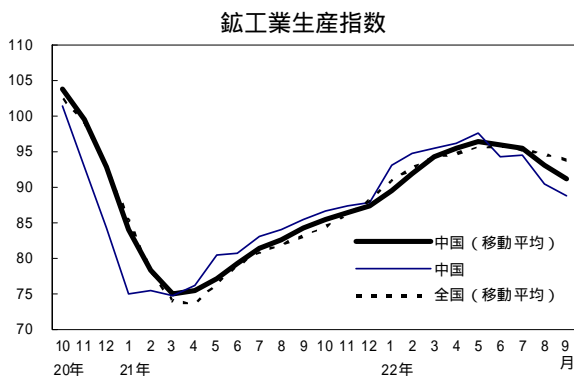
前回調査からの主要変更点

	前回(平成22年8月)	今回(平成22年11月)	
景況判断	持ち直しの動きがみられる	足踏み状態	
鋳工業生産	緩やかに持ち直している	減少	
住宅建設	減少	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鋳工業生産は減少している。

鉄鋼は、アジア向け輸出の鈍化などにより、普通鋼鋼帯等を中心に減少している。化学は、9月に定期修理があったことなどから減少している。輸送機械は、エコカー補助金終了に伴う自動車の反動減により減少している。一般機械は、半導体製造装置の増加などから、増加している。電子部品・デバイス、携帯電話やパソコン用アジア向け輸出の減少などから、固定コンデンサ、モス型半導体集積回路を中心に減少している。



- (備考) 1. 17年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。
2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

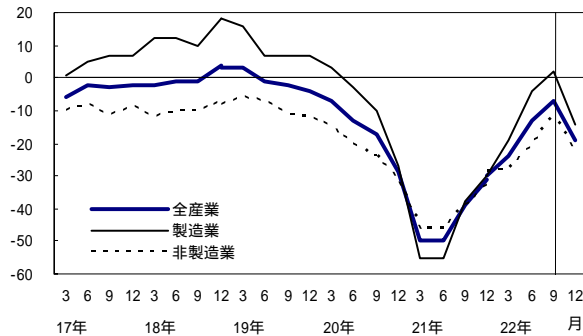
	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期		
鉄鋼	16.5	2.7	11.0	12.9	9.6		
化学	16.1	2.3	7.1	2.8	6.0		
輸送機械	14.8	1.2	2.5	2.1	43.4		
一般機械	10.7	0.0	5.1	2.1	1.5		
電子部品・デバイス	7.3	13.4	9.4	10.5	-		
鋳工業	100.0	1.7	4.9	4.4	1.8		

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7~9月期は速報値。
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

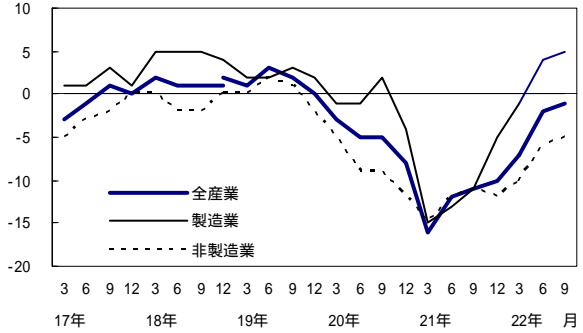
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



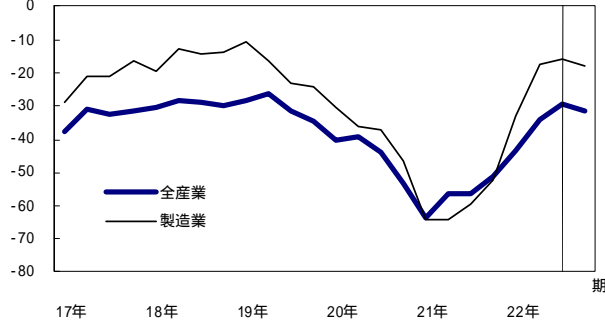
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年12月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「住宅着工数は回復傾向にあるものの、円高等による将来の不安や懸念が本格的回復を妨げている(木材木製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

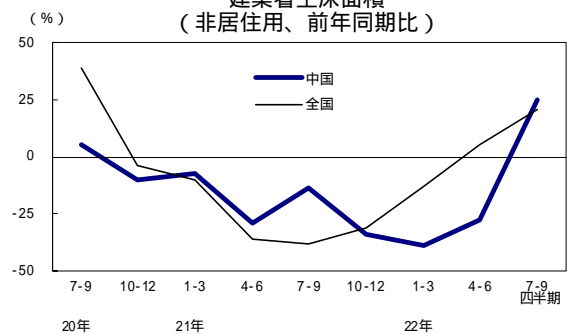
(3) 22年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全産業	27.1	8.6(7.6)
製造業	30.8	11.7(12.8)
非製造業	21.9	4.8(1.4)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

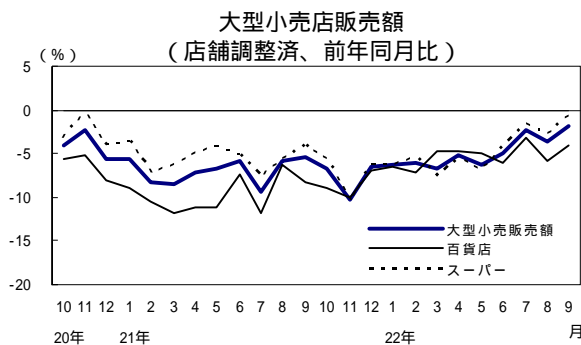
大型小売店販売額

7月は、主力の衣料品は婦人・紳士ともに低調に推移したが、梅雨明け以降の気温上昇に伴い、日傘などUV対策商品などが好調だったことから減少幅が縮小した。8月は、猛暑により、秋物衣料が動かないなど全体的に低調に推移し、減少幅が拡大した。9月は、主力の衣料品では秋冬物の動きが悪かったものの、下旬は気温も下がり、ブーツなど一部の身の回り品に良い動きが見られたことから、減少幅が縮小した。日本百貨店協会によると、10月の中国地区の売上高は、前年同月比で1.7%減となっている。

スーパーは、衣料品が低調であったものの、飲食料品ではビール、アイスクリーム、そうめんなどの夏物商品が好調だったことなどから、前年同期比の減少幅が縮小した。

景気ウォッチャー調査(9月)[家計動向関連(現状)]

「前月までに比べ来客数は回復傾向にあるが、野菜高騰などの影響で買上点数の伸長が困難で客単価が上昇せず売上確保が厳しい状況である(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

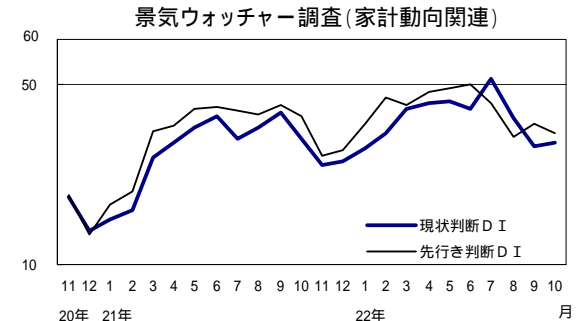
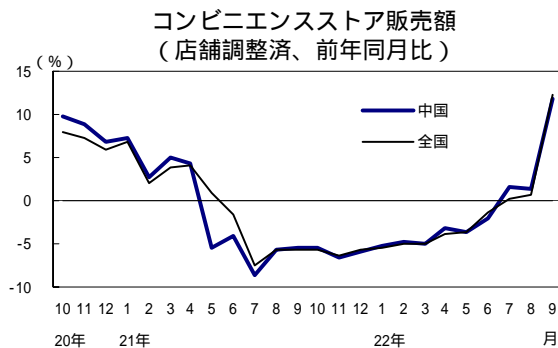


	(前年同期比、%)			
	21年10-12月	22年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	7.8	6.4	5.5	2.6
百貨店	8.5	6.0	5.2	4.2
スーパー	7.3	6.5	5.6	1.8
乗用車	18.2	22.3	18.3	4.2
景気ウォッチャー	34.4	39.9	45.5	43.3

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

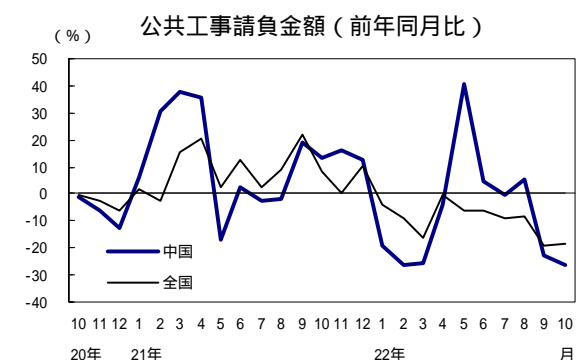
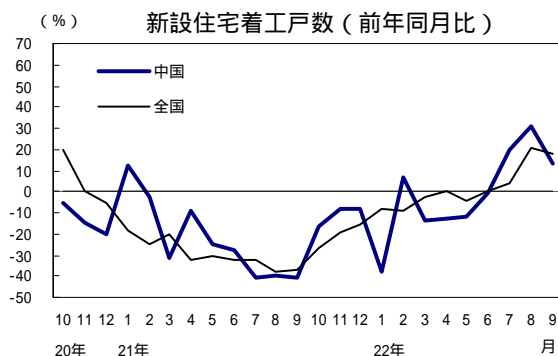
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家が大幅に前年を上回ったことから、全体でも大幅に増加している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。

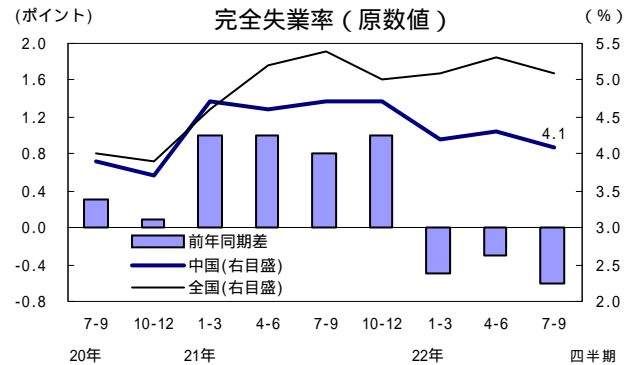
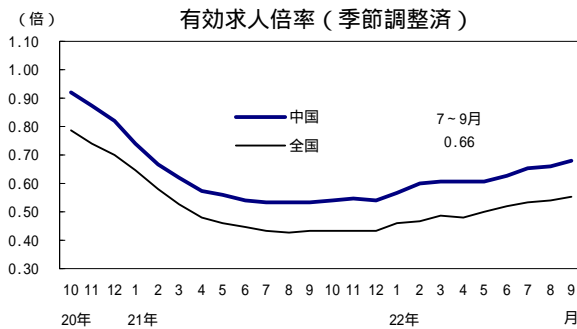


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月)[雇用関連(現状)]

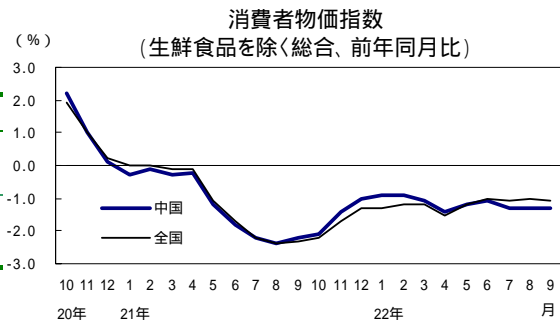
「新規求人は前年同月比プラスで推移しているものの、基幹産業の製造業の求人が2か月連続減少となった。特にハードウェア製造業でエコポイント制度終了を控え、生産調整に伴う求人減少がみられた(職業安定所)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少し、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年10-12月	22年1-3月	4-6月	7-9月	22年10月
倒産件数	156	118	111	110	33
(前年比)	21.6	33.7	24.5	29.5	42.1
負債総額	466	367	244	213	45
(前年比)	8.1	61.4	67.2	34.6	79.6



景気ウォッチャー調査 (10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・天候にも恵まれ回復傾向にあり、特に週末が良くなっている(ゴルフ場)

<先行き>

・北米を中心とした海外向けの自社製品の売上について、長期間不振であったが、徐々に受注が入るようになり回復傾向にある(一般機械器具製造業)

